



二松学舎大学 父母会報

平成5年5月10日創刊
令和3年3月31日発行
(第112号)

二松学舎大学父母会
(本部・事務局)

東京都千代田区三番町6番地16
二松学舎大学学生支援課

題字は
故 観山貞広常吉先生書



卒業を祝す



父母会長

細谷 文雄

春の足音がもうすぐそこまで訪れている今日の良き日、巣立つ日を迎えられる皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、ご家族並びに関係者の皆様にも心よりお祝い申し上げます。例年は、中野サンプラザホールにて卒業式典を開催してまいりましたが、今年も新型コロナウイルスの感染拡大が続いていることから、一堂に会する式典は中止となりました。

卒業生の皆さん、ご家族の皆さま方におかれましては人生の節目でもある式典を心待ちにされていたことと存じます。父母会役員としても何度も話し合いを重ねてきた卒業パーティーの開催も出来ず大変残念でなりません。さて、皆さんのご卒業を祝すご挨拶ではありますが、コロナ禍において被害なされた皆様にか

らお見舞いを申し上げます。

昨年度から世界中を脅威にさらしている、新型コロナウイルスの感染拡大と、これから皆さんが社会人として過ごす時代はどういうものになるのか、自分の子供同様に考えさせられます。オンライン授業やキャンパス利用の制限等々、学生生活の一年間をこのような状況のなか過ごした皆さんには、大きな不安や戸惑いがあったことと思います。これからの社会では、高度情報社会や人工知能等の科学技術の普及が急速に進み、仕事や日常生活も変化していくでしょう。ふまえて、地球環境問題や少子高齢化など様々な難問に立ち、はだかるかもしれません。しかし、これからの本番です。時代の変化を恐れず二松学舎大学で身につけた建学の精神を思い出し、常に変化しつづける社会を読み、未来を切り拓いていってください。

今回、望まぬコロナ禍の経験のなか、皆さんは新しい生活様式や学びに対応し成果を上げ、学位を取得されたことに心から敬意を表すと共に、父母会員の皆さまには深いご理解、ご協力を賜りありがとうございました。その中で、大学の教職員の皆様方、関係各位様のたゆみないご尽力に父母会を代表しまして心から感謝を申し上げます。最後になりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の収束を願いつつ、父母会及び関係各位様のご健勝ご多幸と、二松学舎大学の益々のご発展を心よりご祈念申し上げます。

持続可能な社会を実現する人材としての活躍を!!

理事長 水戸英則



皆さん、またご家族の皆様ご卒業誠にありがとうございます。

さて、昨年春の卒業式は新型コロナウイルス感染症の拡大により、中止とし、ゼミ単位で各先生から卒業証書を手渡しさせていただきました。今年度は、通常の卒業式を望んでおりませんが、新型コロナウイルスが引き続き蔓延状態にあり、

やむなく同じ形で、皆さんの門出をお祝いさせていたただくことになりました。極めて残念なことだと思われませんが、諸般の事情をご理解頂ければと思っております。

またこのような厳しい制約の中で、オンライン授業とはいえ、皆さんが強い意志と忍耐心をもって、学問を継続したことに、改めて深い敬意を示すとともに、今回の経験により皆さんが、今後遭遇する数々の困難を乗り越えて行く力を身に付けて頂いたと確信しております。どうか厳しい経験を今後の人生に活

かしていくよう切望する次第です。

皆さんは、これから社会へと旅立ち、自立した自己責任の下での生活が始まります。これからの時代は、AIを中心としたSocietyの時代に入っていく訳で、デジタル化、カーボンゼロ時代への突入等大きな変革を迎えようとしています。こうした変化の激しい社会の中で、日頃頭に置いて頂きたい点を、二点申し上げておきます。

まず一点は、仕事や研究にあたり、変化を受け入れ、日々新たな気持ちで取り組んでいくということです。毎日同じ繰り返しではなく、昨日より一歩でも進んだ形、「日々是新」という気持ちで、仕事や研究に臨むことが、変革期にある我が国の社会の中の生き方ではないかと思えます。

二点目は、モラル・道徳心を持って、判断し、行動してほしいということです。今回のパンデミック、カーボンゼロ、デジタル社会への移行等大転換の中にあっても、なお人間が本来果たすべき道徳心の大切さ、倫理性を持つた人材が必要です。本学創設以来の建学の精神に基づいた育成する人材像である「創造性と倫理観を持つ人材」として、今後も活躍して欲しいと念願する次第です。

以上二点、皆さんがこれから社会の中で行動する場合の大切な心構えです。これらを念頭に、皆さんが二松学舎大学卒業生として日本や世界で持続可能な社会を実現する有意な人材として活躍することを念願して送る言葉とします。

ご卒業おめでとうございます

学長 江藤茂博



ご子息ご息女のご卒業、おめでとうございます。

長く見守られそして期待され、ここまで立派にご成長されたご子息ご息女が、晴れて社会人としての第一歩をいま踏み出されようとされています。新型コロナウイルス感染拡大という社会

的な危機のなか、しっかりと今後の人生を歩まれることを、私たちは強く信じ、時には支え、大きく祝福していこうではありませんか。

また卒業生諸君、君たちは多くの支えにより、この卒業の日を迎えられたのだと思う。だからといって肩身の狭い思いをしなさいというのではない。わずかばかり先を歩く私たちは、君たち、託すべき者たちと出会うことで、はじめて人生の意味や

喜びを知ることになるのだ。君たちもまたいつか、後に続くものに、よりよいものを託してほしい。教育機関としての大学とは、君たちに人間の知を託す、いわば合理的な場所でもあったのだ。

君たちは皆、ひとに託すに足るものを手に入れなければならない。そして、託すに足るだけの、後に続くものを育てなければならない。もちろん託すものとは、権力や財力のことではない。そんなものの独り占めは醜いし、財は単に託すべきものではない。託すべきは、君たちのこれからの歩み、これからの生きかただと思ふ。もちろん、それぞれの時代

で具体的な様は異なるだろう。でも託すべき人としての歩みや生きかたは変わらない。たとえば中国古典の墨子に、「仁者の任務は、必ず天下の利を興し、天下の害を除くように努力し、天下に基準となる法則をうち立てようとするところにある」(「非楽篇」)とある。いまでいう、公共性の問題である。私はここで「天下」を「皆」と置き換えただけである。さあ、「天下の利を興し」「害を除くように努力し」た生きかたを手に入れて、後に続くものにそれを託せる大人になってほしい。

変化を恐れず前へ

文学部長 牧角悦子



大学生活の最終年度をコロナ禍という非常事態の間に過ごした皆

さん。卒業おめでとう。

卒業とは業を終えることです。そして大学での学業とは、単に授業に出席して単位を取ることだけではなく、対象に向きあい、その意味を自

分の言葉でとらえる能力を修得することだとすれば、世界中を覆ったこのパンデミックに対して、その意味を問い、対処法を模索することもまた、貴重な学修経験だったと言えるかもしれません。

人文学という抽象的な学問は、解のない問いに耐える力を鍛えるものです。我々の直面したこの世紀的災厄は、大きな問いを突きつけました。確乎とした解を持たないこの問

いに対して、世界中の知性はその解明に向かうと同時に、この問いの意味もまた我々を大きく試しました。真剣に問えば真剣な解が、安易に問えば安易な解が返ってくるからです。今、それぞれが見つけた解釈と対処法、確立した物語とが、生きる力となつて皆さんの人生を導くことを期待するとともに、非常時の経験を学びの一部に昇華して業を終えた皆さんの、この一年間、そして四年間の健闘を讃えます。

コロナ禍の前の世界に、私たちは戻りません。当たり前だと思っていた日常は、決して無条件に提供されたものではなかったことを私たちは知

りました。であれば、そしてだからこそ、皆さんには、新しい日常を作り上げ、新しい価値を手に入れて欲しいと思います。与えられた価値ではなく自ら創り出す新しい価値、それが次の世代を今よりも豊かにできるよう、そんな創造という力の意味を、大学での学業を通して皆さんは手にいれたのですから。

昨日とは違う今日、今日とは違う明日に向かって、変化を恐れず前へ進んで欲しいと願います。



卒業生に贈る

国際政治経済学部長

中山政義



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうござい

ます。二松学舎大学での学びを終え社会人となる皆さんに、一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。

二松学舎大学で過ごした四年間の学生生活は、いかがでしたか。最後

の一年間は、コロナ禍で予測不能な状況を迎え、非対面授業が続くという経験もしましたが、ゼミ仲間との学びや課外活動など、それぞれに思い出深い時間を過ごされたことでしょう。社会人としての生活が始まると、自由に過ごした学生時代とは異なり、周囲の変化に戸惑うかもしれません。そんな時には、二松学舎大学での学びを思い出し、自信を持つて行動して下さい。

皆さんは、政治、経済、法律等の学問を学んできました。社会科学は、人の行動を分析・予測する学問です。コロナ禍の一年間は、身近な体験から社会を注視することで、政治や経済の動向を知り、人々の健康や生活を守るための法政策の効果とを、自分の目で見て判断する機会となりました。困難な時を過ごしたけれども、この体験を大学での学びの集大成として、今後の人生に生かしてほしいと思います。

日本社会は、外国人を迎え入れながら多様な文化を包含する社会となり、AIやロボットは労働環境を根本から変えるでしょう。また、コロ

ナ禍の影響で、社会の変化は予想より急速に進むとされ、新しい環境に順応しながら活躍することを求められます。皆さんは四年間の学びで、政治や経済の動向を見抜く力や、客観的に物事を判断する力を会得しています。働く環境がどのように変わろうとも、蓄積した知識を活かし、鍛えてきた論理的思考力と発言力を発揮してください。

自分を信じて謙虚に努力を続けていけば、きっと明るい未来が待っています。心よりご活躍をお祈りいたします。

国文学科・中国文学科・都市文化デザイン学科・教職課程の先生方から
餞の言葉を頂きました。

Way to go!

白井 雅彦

卒業 おめでとうござります
新しい場での出会いに恵まれますように

改田 明子

努力と忍耐で大いに羽ばたいて下さい

林 英一

わかられどあひもをしるぬ
一念岩をも通す
おんなびやを見ごらふことの
心に悲しき
ホームカミングデーで
逢えようすししや

山崎 正伸

幸せな人生を!

増田 裕美子

勝たなくてイイ、
負けるなよ!!

島田 泰子

悩んでも仕方がないとほ悩まない
笑顔で前に進みましょう

小方 伴子

(土芳 三冊子より)

長島 弘明

一念岩をも通す

王宝 平

特別天長教育の考え方は「基準をずらして
みる」とその、障害のある人や少し変わった人
達にどうも優しく広い心で接してください

岡田 哲也

見えないものとの闘いは
心からも強くへきけが人生)

年を重ねるごとに 僕らは強くなる
挫けず あきらめず この道を進みつづけよう

"Come So Far (Got So Far to Go)" 「ハズプレー」より

中谷 いずみ

사랑해!

(愛してるよ!)

塩田 明日子

皆さんは本当に真摯な努力を
凝らしてきました。それが社会を大きな
実りとなるはず。社会をリードする人になして下さい。
期待しています。

塩沢 一平

松のことは松に習へ

芭蕉

(土芳 三冊子より)

君子は天職を奉ずる
者なり。

それらの道と歩んで下さい

町 泉 弄 郎

コロナ禍が終息しましたら、
是非又母校にいらして下さい。
御目に掛かれることを楽しみ
に致しております。五月女 肇 志

聲の響きを共にし、舞の中を
身体全体で受け止める。リセット
では伝わらないもどかしい一年でしたが
最後の公演には全員参加出来て
嬉しく一日でした。あの一日を忘れないで
下さい。
中所 宜夫

好きこそ
ものの
上手なれ

上手なれ
津 森 幸 也

自分の人生を自分でデザインできる
人生を送って下さい。

松本 健太郎

文学部・教職課程

豊かな人生を

磯水絵

樂しませう

何の人生ぞや

高橋佑太

積善乃余慶

原果実

「知人者智、自知者明。」(老子)

卒業生の心とこころです。田村幸子

それはもはや別の物語り、

新しい別の物語りでなければ

ならない。」(大西巨人「神聖喜劇」)

山口直孝

詩言志、歌永之。

牧角悦子

想像してみよう。未来を

創造しよう。自分の未来を

変えられない未来などないのだから

高間護治

パスが来る前に
周りをよく見ておこう

日日に新たななり(白大学)

伊藤晋太郎

森野 崇

笑口常开

张佩茹

祝

新たな出会いが

よきものになることを祈る

市来津由彦

勇往邁進

小山聡子

飲ぶ物自私

杜南公江亭 松浦史子

柳に雪折れなし

林謙太郎

たまには近況報告でも送ってください。
さ。僕も必ず返事を書きます。

五井 信

不患無位、患所以立。

永井鉄郎

笑門来福

中川 桂

また学びたいと思っただら、いつでも戻ってきてください。遅いということはありません。

戸内俊介

すべてこの日が

それぞれの日が

贈り物をもっています。(古代ローマの言葉)

よき人生を。

足立 元

百下不元

高澤浩

生れて来た以上は、生きねばならぬ。
敢て死を怖るるとは云わず、只生きねばならぬ。
(夏目漱石「倫敦塔」) 清龍田浩

国際政治経済学部

国際政治経済学科の先生方から 饒の言葉を頂きました。

適度な有酸素運動(週に五分くらゐ)
は、病気を遠ざけ、身体を頑強にする。な
りて、心の安定、強化にも、脳の機能を
向上にもつなかりました。みんな、で、至
るまで走りましょう。
佐藤 晋

日々の何気ない言サを丁寧

押野 洋一

御卒業おめでとうございます
みなさんの新しい人生の門出を
心からお慶び申し上げます

金子 智香

ご卒業おめでとうございませう
小久保 依哉

つらい時は、卒論の苦業も
思い出して乗り切ってください。
それでもダメな時は、ソフでも
ご連絡下さい。
大槻 奈那

ご卒業おめでとうございませう。
皆さんのこれからの人生が充実したもの
なることを心よりお祈りしております。
これからも人生を楽しんでください。

大野 知之

たのしみは

朝おきいて昨日まで

無かりし花の咲ける見る時

加藤 木綿美

静かに行く者は健やかに行く

健やかに行く者は遠くまで行く

渡辺 和則

御卒業おめでとうございませう。

これからの御活躍を

いからお祈りしております。

関沢 修子

ご卒業おめでとうございませう。

菊地 宏樹

自分を信じて進んで下ろ

中山 政義

和風吹萬物物自不曾知
是故有生意三春貫四時

今井 悠人

ご卒業おめでとうございませう
頑張りがみず、楽しい人生を
山 邊 進

山 邊 進

ご卒業

おめでとうございませう。

小澤 裕紀子

小具 龍史

ご卒業

おめでとうございませう

岩田 幸子

人生 谷 あり

山 あり です

河原田 有一

希望に満ちた幸せな

人生をお祈りいたします。

社会に出て、たくさんのお祈り

出会いがありますように。 本多 峰子

白石 まりも

「智に働けば角が立つ」けれど
「智を働かす」ことから逃がらない
人生を

岩崎 愛一

高野 和基

ご卒業おめでとうございませう。
自分を大切に、前向きに歩いて
いって下さい。

戸辺 玲子

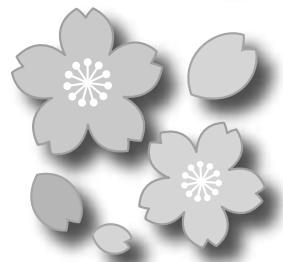
Many Congratulations on your Graduation!

I wish you all the best -

Masashi Nishikawa Vancouver
おめでとうございませう。
皆様の今後の
活躍を心から
お祈り申し上げます。
西川 ウェンチン 穂子



二〇二〇年度 卒業式



二〇二一年三月十六日(火) 中野サンプラザホールで二〇二〇年度二松学舎大学学位記授与式(卒業式)を挙行する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、学位記授与式は中止となり、本学九段キャンパスで学位記の授与が行われました。安全性に配慮する形で国文学科は中洲記念講堂、中国文学科は、二〇一教室、国際政治経済学科は二〇二教室に分かれ、さらに学生番号順に数回に分かれて集合していただき、各学科の先生から学位記を授与しました。それぞれの学科の成績優秀者には、中洲賞として賞状と賞品が授与されました。

午後開催予定の父母会主催の卒業パーティーも中止とさせていただきます。卒業生の皆様には、記念品を贈らせていただきます。

卒業生の皆さん、ぜひ自分の夢を大切に粘り強く仕事に取り組み、社会人として活躍さえることを祈っております。







卒業にあたり、新しい人生への希望に満ちた門出に胸ふくらませている学生四名に、四年間学んだ学生生活を振り返り、現在の心境及び感想等を語っていただきました。

『卒業によせて』



国文学科

谷村 佳奈

二松学舎大学に入学してから四年、こうして無事に卒業の日を迎えられたことを嬉しく思います。日々はあつという間に過ぎ去っていきましたが、思い返せば限られた年月の中で積み重ねてきた経験のあまりの多様さに目が眩むようです。

私たちの世代で特筆すべき事柄は、やはりコロナ禍に見舞われたことでしょう。入学以来順調に送ってきた学生生活が、最後の一年でその様相を大きく変えてしまったことには衝撃を受けました。大学や国会図書館に通いながら卒業研究に取り組んだり、友人と雑談をしたり遊んだり……。思い描いていた「大学最後の一年」像とはかけ離れた一年間になってしまいました。卒業旅行に行くこともこの世相では難し

いでしょう。非常に残念なことです。一日でも早く事態が収束を迎え、後輩たちに自由で伸び伸びとした学生生活に戻ることが祈っています。

最後の一年に多少の心残りはあるものの、私の学生生活は決して悪くはなく、概ね有意義で満足のいくものでした。大学でのあらゆる活動を通じて、自分自身やその属性を相対化するという考え方を体得できたからです。

私は国文学を専攻していたのですが、二年生の頃から日本の外の文化や言葉に興味を持ち、学校の制度を利用して留学をしたいと思うようになりました。そして一年かけて英語を基礎から学び直し、その目標を叶えることができました。実際に現地に行ってみると、母語の有難みをひしひしと感じま

した。生まれ持った言葉が通じないという状況は想像以上に心細く、一緒に留学をした学生との間には一ヶ月足らずで長い年月を共にした同志のような絆が芽生えました。この体験は、自分にとつては当たり前のものだった日本という国と日本語という言語を相対化する機会を与えてくれました。母国や外国を貶めたり神聖視したりするのはなく、それぞれの優れた点は何か、逆に欠点は何かを比較検討し言語化すること。そして、相手の優れた点をどうすれば自分自身に取り入れることができるかを考えること。このような営みの中で、私は日本人かつ日本語話者であるという事実を意識せざるを得なくなりました。周囲の大多数が同じ属性であるこの国で、それを自分のアイデンティティとすることは大変に難しいことです。海外渡航と相対化ということが組みを経て身をもってそれを知ることができました。

もう一つ特筆すべきものはゼミナールです。私は近代文学の中で主に白樺派を扱う瀧田浩先生のゼミに所属していました。このゼミではある作品を扱うごとに一人一人がそれを分析し、それを踏まえて一言で「これはどのような物語か」をまとめるという取り組みをしていました。一言で作品の全ての要素を取り入れることはできないので、何を取り入れ何を切り落とすのか、取捨選択が必要になります。そこに、一人一人の価値観が表れていまし

た。他者の分析手法とまとめに表れる価値観を自分のものと比べ、「なぜそう考えたのか」を聞く。この取り組みは、自分の価値観があくまでも相対的なものであることを可視化していきました。リアクションペーパーの限られた紙面の上でわざわざ書き表すまでもない自明のこととして削除した事柄が実はあまり共有されていなかったことを知る。逆に、自分が全く気づきもなかった意味を他者の指摘によって見出す。同じものを見ていても、見ている点が違えば全く異なる結論に辿り着きうる。もしもゼミでこのような取り組みをしていなければ、「価値観は人それぞれ」というもはや陳腐化した言葉の重みを感じることはなかったかもしれません。私はこの取り組みの中で、個性とは個のみで実現できるものではなく、集団の中で各々が自己を率直に表現した時にのみ自ずと表れるものであることを知りました。

私はこれから一般企業に就職し、社会人として生きていくことになります。学生時代とは比べ物にならないほど多くの人との関わりが待ち受けていると思います。しかし、それが自分にもたらすものを理解した今、私は怖れることなく人で溢れかえる社会の中に出て行くことができるでしょう。彼らを、そして自己を理解するために国文学科で研ぎ澄ませた言葉を尽くしていきたいと思えます。

『大学生活を振り返って』



中国文学科

中 基 真 映

二松学舎大学での四年間の学業を終え、ついに卒業を迎えました。四年間という限られた時間の中で、友人や諸先生方との出会いをはじめ、様々なことを経験できた充実した大学生生活でした。二松学舎大学に入学して、四年間学び続けることができ、本当に良かったと思っています。そこで、私が過ごした四年間を少し振り返りたいと思います。

私が二松学舎大学に入学した理由は、「国語の教員になる」という夢を叶えるためです。高校時代の恩師の勧めや、国語の教員を目指す高校時代の先輩が実際に当時在学されていたということもあり、二松学舎大学に入学を決めました。

大学に入学するまでは、部活動中心の学生生活を送っていました。文武両道が理想でしたが、部活以外の時間が少ないうえに勉強も苦手な私は、勉強面が疎かになっていま

た。ですが、大学に入学してからの私の生活スタイルや心持ちはかなり大きく変わりました。これまでの学生生活で自分の好きなことをとことんやってきたので、大学生活では勉強面に力を入れ、絶対に現役で国語の教員になるという目標を立てていました。

そこで私が最も大切にしていたことは、日々の授業を真面目に受けるということ。学生として当たり前のことではありますが、この姿勢を大切にしてきました。四年間この姿勢を大切に続けた結果、やってきてよかったと感じることが大学生生活を過ごす中で何度もありました。特に、大学から学び始めた中国語は、学んでいく中で興味を持ち、中国浙江省への短期留学やHSK四級の資格を取得するなど、貴重な経験に繋がりました。中国文学科の授業の他にも、国文学科の授業を受け、

国語の教員を目指す身としての学びも深めることができました。

先生方の講義を受ける中で、新しい発見がいくつもあり、学びが深まれば深まるほど、楽しさを感じました。読書をよくするようになったり、時に自分で文学散歩をするようになったり、大学生活を通して、今までの自分では考えられない程、自ら学ぶ姿勢が身に付いたり、学ぶことに楽しさを感じられるようになったりしました。それと同時に、私が国語の教員になった時、先生方のように多くの知識を備えて生徒たちを惹きつけるような話ができるようになりたい、学ぶことの面白さや楽しさを伝えていきたいと強く思いました。私が諦めず、夢に向かって学びを重ね続けることができたのは先生方のおかげだと思います。本当にありがとうございました。

また、大学生活を送ってきた中で、友人たちの存在は私にとつて、とても大きなものでした。同じように教員を志す友人、自分の専門を極める友人など、人として尊敬できる友人たちに出会えたこと、四年間共に学ぶことができたことは、刺激的で、とても充実したものでした。学生同士で切磋琢磨し合える環境で過ごせたことも自分の今に繋がっていると思います。一緒にお昼を食べたり、授業を受けたり、試験前には勉強したり、色々な話をしたり、遊び

に行ったり、そうした時間を毎日送ってきたり、今後はできなくなると思うと寂しく感じます。今年度はコロナウイルスの影響でほとんどがオンライン授業だったため、友人たちにもなかなか会えませんでした。それでも、友人たちとたくさん思い出をつくれた大学生活でした。大学で出会った友人たちとの関係は、今後も大切にしたいと思っています。

四年間を振り返ると、多くの人の支えがあつてこそ、今があるのだというのを改めて感じています。国語の教員になるというずっと追いかけてきた夢が現実になった今、大学を卒業し次のステップへ進むことへの不安や心配もありますが、二松学舎大学での四年間の学びや経験を自分の強みに、頑張っていきたいと思っています。家族、友人、諸先生方、支援していただいた二松学舎大学関係者様、お世話になった全ての方々に深く感謝いたします。四年間、本当にありがとうございました。



『デザイナーを志す』



都市文化デザイン学科

生方 拓 郎

二松学舎大学を卒業するにあたり、都市文化デザイン学科の総代として選ばれたこと大変光栄に思いま

す。ご指導いただいた先生方に心から感謝申し上げます。また、新型コロナウイルスによって社会が混乱している中で、オンライン授業の開設や特別奨学金の貸与等、学びの環境を整えてくださった関係者の皆様に心より御礼申し上げます。これまでの四年間を振り返り、皆様への感謝と今後の思いを新たにしたいと思

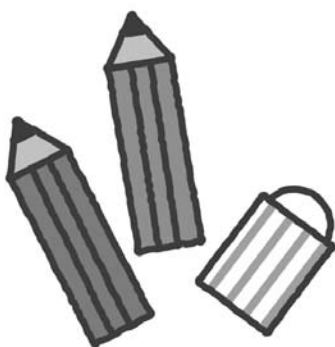
います。私の入学動機は大層なものではありません。「おもしろそうだったから」という実に単純なものでした。というのも、都市文化デザイン学科の研究対象の一つが、アニメ・マンガ・ゲームなどの自分に興味のある分野であったからです。入学当初の私は、「こういうものが本当に学問的に扱えるのか」という疑問を抱

いていましたが、それはすぐに誤解だったことに気づきました。アートとしてみればマンガは九番目の芸術として評価されていますし、メディアアとして考えるならそういったコンテンツには不可視の価値観やルール、コミュニケーションが隠れています。あるいは、フランスのジャポニスムや欧米の映画文化との関係性から文化比較を探ることもできるでしょう。学びにおける重要なことの一つが、様々な視角で物事を見ることです。世界を見る解像度を上げることで、それが二松学舎大学で得た一番の力でした。

しかし、都市文化デザイン学科での学びはそれだけで終わりません。自らコンテンツを制作するという試みも行いました。都市文化デザイン学科の必修科目である都市文化デザイン学研究では、公園をテーマに模型を作りしました。A0用紙に線を引

き、粘土を捏ね、木材を切り、絵の具で彩るなど、久しぶりの物作りにワクワクしたことを覚えています。他の科目では企画制作や映像制作なども行いましたが、すべてに共通する重要なことがデザインです。デザインは形や色だけを指すものではなく、その本質は設計です。つくる目的は何であるのか、誰に向けたものであるのか、どのように伝えるのか、といった細かい気配りが必要不可欠なのです。実際に会社経営をされている大塚泰造先生と海野裕先生には、講義を通じて設計の基礎的な考え方を学びました。学びに対する考え方としてだけでなく、これからの社会に通じる力として、人々の暮らしをより良いものへデザインするために振るって行きたいと思

います。都市文化デザイン学科の授業を通じてデザインへの魅力に惹かれた私は、在学中にウェブデザイン自主学习をしていました。デザインに関する職業は多くありますが、その中でウェブデザインを選んだ理由は情報の発信者になるためです。現代は、インターネットだけでなくSNSやCGMなどの普及で情報の拡散性が高まり、これまで受け手であった消費者が情報の発信者になれる時代でもあります。しかし、多くの情報媒体があるからこそ、情報の核となるウェブサイトの重要性は高まっ



『四年間の歩み』



国際政治経済学科

宮城 惇 平

私が二松学舎大学に入学してからあっという間に月日は流れ、無事に卒業を迎えることができました。私の大学生活は興味をそえられる魅力的な講義の数々や素敵な友人たちとの出会いに溢れ、毎日とても充実していました。

振り返ってみると、大学での学生生活はこれまでの学生生活と大きく異なるものであったと思います。学習の仕方や生活面での変化など、最初の頃は戸惑うことも多くありました。しかし、成功や失敗など様々な経験を積み重ねることで、自身の特徴を理解し、成長するきっかけとすることができました。このような私の四年間について、少しお話ししていこうと思います。

私の在籍していた国際政治経済学科では、一・二年次に政治・経済・法律などの基礎について勉強し、三・四年次でより専門的なことを勉

強することができました。これによって、体系的に学習を進めることが可能となり、自分の専攻分野を決定するにあたって非常に役に立ちました。また、二松学舎大学では自分の所属する学部だけではなく、他学部の講義も受講することができ、自分の興味の幅を広げる手助けになりました。さらに、三年次から始まるゼミナールの活動では、みんなと協力して物事を進めていく難しさや楽しさを学びました。私が所属した関沢先生の憲法ゼミでは、一人一人が自分の興味のある判例を紹介し、その判例の問題点などについて議論をする授業がありました。初めは、判例について理解をする事に精いっぱい、議論をすることが難しい状態でした。しかし、回を重ねるにつれて、みんなの中で判例を紹介する際のポイントが整理されたことや、憲法学の知識が増えたことによ

って、判例の問題点や背景まで考えられるようになりました。私はこれまで自分の意見を誰かに発表する際に、自信がなくなってしまう自分の伝えたい内容を十分に相手に届けることができずしてました。しかし、ゼミナールでの発表を経験したことによって、自分の意見をみんなに伝える際のコツを得ることができました。

また、良き友人たちとの出会いが私の学生生活をより充実したものにしてくれました。お昼の時間に、学食でたわいもない会話をしながら食べる料理はどれもおいしく、とてもリラックスできる時間でした。さらに、テストが近づいてくると図書館や空き教室でわからない分野を教えあうなど、勉強面でも支えられる場面が多くありました。

ちょうど昨年の三月頃から日本でも新型コロナウイルスが流行し始め、当たり前でできていたことができなくなると、日常生活に影響がはじめてきました。大学でも、遠隔授業の実施など感染拡大防止のための措置を取らざるを得なくなりまして。これによって、学校に行く機会が減り、友人たちと会う機会も減少してしまいました。このような状況で、私は孤独を感じ、これから就職活動をどのように進めていけばいいのか、卒業することができのかなかどもややもとした不安を抱えながら

日々を過ごしていました。しかし、教職員の皆様からの支援や友人たちとのインターネットを介した交流によって、何とか立ち直り前を向いて進むことができました。

現在、社会は大きく変化をしています。新たな生活様式が誕生し、それに合わせたサービスや人との接し方など今まではなかった常識が生まれてきています。そのような中にあって、人と人とのつながりはより重要になると思います。なかなか就職先が決まらず、不安と焦りが募る中で、心の支えとなったのは身近にいて見守ってくれていた家族であり、ともに苦しみを味わった友人たちの存在です。これから先の未来でも大きな困難が待っていると思えます。しかし、この四年間で数々の苦難を乗り越えることでつかんだ自信といつでも支えてくれる人の存在を心の中に思い描きながらこの先の道を歩んでいこうと思います。

最後に、卒業することができるのは、私のことをいつでも応援してくれていた家族、ともに笑い苦難を乗り越えてきた友人たち、魅力的な講義をしてくださった諸先生方、多くの支援をいただいた二松学舎大学の関係者の皆様のおかげです。お世話になったすべての方々には深く感謝いたします。本当にありがとうございます。

●卒業生は大学の財産です！

二〇二〇年度卒業生のご父母の皆さま、おめでとうございます。キャリアセンタ―は、学生が選んだそれぞれの進路について、卒業後も成長し、活躍されることを、おおいに期待しております。大学にとって、卒業生は財産です。

卒業生が活躍することで、企業の採用担当は「二松学舎大学の卒業生の活躍は素晴らしい。ぜひ先輩を採用したい」と考えるようになります。

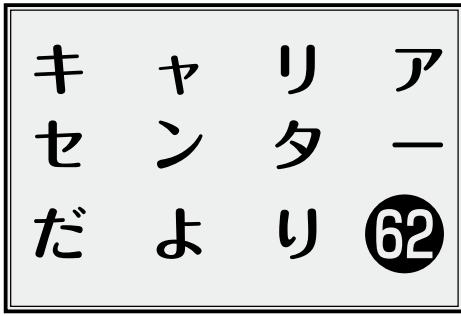
卒業生の活躍が大学の評価に繋がり、二松学舎大学の学生に期待し、積極的に採用する。そういった好循環が大学の歴史を築いてきたといっても過言ではありません。ぜひご子女にも活躍いただき、先輩が誇れる先輩になってほしいと思います。ご子女の皆さんは、今は宝石の原石です。ご自身の将来のために自分を研磨し、光り輝く将来を手にしてほしいと願っています。

●卒業後も支援します！

二松学舎大学は、卒業後も就職・就労に関する相談等を受け付けております。本学は小規模な大学です。そのぶん、手厚いサポートが可能なのです。卒業して終わりではないのです。進路変更の報告や転職のご相談もお寄せください。

●就職活動、本番です！

三年次生（新四年生）の就職活動



は、すでに佳境です。

キャリアセンタ―では、履歴書の添削や模擬面接など具体的な就職支援をオンラインで行なっています。併せて就職活動の悩みなどについてもカウンセリングを受け付けています。ぜひキャリアセンタ―への相談を促してください。キャリアセンタ―は進路支援のプロフェッショナルです。

●今どきの就活は、ご父母のときと違います！

ご父母の皆さまのときの就職活動と今とでは、産業構造も変化し、情報ツールも多様化し、なにもかもが変わっております。ご父母の皆さまにも今の就職活動を知っていただき、どのような支援が適切なかをご理解いただくために、新三年次生のご実家宛てに「保護者の皆様へ 就活サポートブック―就職活動へのご理解とご協力について―」をお送りしていただければ幸いです。

就職活動は、学生が大きく成長する機会です。社会との接点を持ち、将来を考え、様々な試練を受けます。反面、悩んだり、困ったことに遭遇することもあります。ご子女がセンチティブになる時期です。ご父母の皆さまにも、ご子女への温かいご支援をお願いいたします。そして何より、インターネット接続の高速回線や、接続機器（ウェブカメラ搭載のPCやヘッドセット）などご自宅等の通信環境の整備に、ご協力をお願いいたします。

ご卒業・ご進級おめでとうございます。例年とは異なる環境のなかでお子さんも保護者の皆様もご苦労の多い一年になったのではないのでしょうか。ご家庭によってはお子さんと関わる時間が増え、良い面もあれば、大変だった面もあったのではないかと思います。

ここで、家庭での学習に関する親の関わり方についての近年のある研究結果をご紹介します。

小学校低学年の子どもは学習時間を増やすために、父母が「勉強したかを確認している」「勉強を横について見ている」「勉強をする時間を決めて守らせている」「勉強するように言っている」の四種類の関わり方のどれが効果的かを測りました。

その結果「勉強するように言う」のはあまり効果がなく、むしろ場合によっては逆効果になることが分かりました。最も学習時間の増加に寄与した関わりは、母親は「勉強をする時間を決めて守らせている」こと、父親は「勉強を横について見ている」ことでした。また男の子なら父親が、



女の子なら母親が関わることで効果が高いことも分かりました。これは小学生とその父母を対象としているので大学生の保護者の方にはそのまま当てはめて考えることはできません。しかし、誰がどのように関わるかがお子さんの成長にとって効果的か、振り返ってみることも重要な示唆しているように思われます。

また、同じようにお子さんのためを思った行動でも少し内容を変えるだけでまったく異なる結果を招くということは、大学生に対しても当てはまることもあるかもしれません。ご家族で過ごすことの多いこのご時世、もしお子さんとの関係がしつくりこないと感じる다면、あれば、ご自身の関わり方を振り返ってみてはいかがでしょうか。関わり方の問題ではないことも多々あるのですが、もっと効果的な関わり方やよりよい関係を築いていくヒントが見つかるかもしれません。

そんな相談にもぜひ学生相談室を使ってもえたら幸いです。

2021年度二松学舎大学日程表

年	月	日	月	日	日	程	
2021年	3	29	~	4	10	ガイダンス期間	
	4	5				入学式	
	4	12				春セメスター授業開始	
	4	20				前期授業料納入期限	
	4	29				(振替休日)：授業実施	
	5	22				父母会定期総会	
	6	20				文化祭(九段)	
	7	15	~	8	6	試験期間(定期試験期間を含み18日間)	
	7	30				授業期間終了	
	8	7	~	9	12	夏期休業期間(52日間)	
	8	19	~	8	20	追試験(20日は予備日)	
	9	13				秋セメスター授業開始	
9	20				(敬老の日)：授業実施		
9	25				春セメスター学位記授与式		
2021年	10	10				創立記念日	
	10	20				後期授業料納入期限	
	10	30				学園祭準備(休講)	
	10	31	~	11	1	学園祭	
	11	23				(勤労感謝の日)：授業実施	
	12	20		12	23	試験期間(定期試験期間を含み17日間)	
	12	24				全学休講	
	12	25	~	1	7	冬期休業期間	
	2022年	1	8				授業再開
		1	8	~	1	29	試験期間(定期試験期間を含み17日間)
		1	15	~	1	16	大学入学共通テスト試験(13日・14日・15日休講)
		1	22				授業期間終了
2		14	~	2	15	追試験	
3		月上旬				卒業生発表	
3		月上旬				進級者発表	
3	16				学位記授与式(卒業式)		

2020年度 学生褒賞

区分	氏名	主催	大会名	受賞内容
個人	谷口 友晴	岐阜市笑いと感動のまちづくり実行委員会	第18回全日本学生落語選手権	策伝大賞(優勝)
	守口 晏南	葛飾柴又帝釈天全国書道コンクール実行委員会	第8回葛飾柴又帝釈天全国書道コンクール	葛飾区長賞
	小林 真歩	「筆の都」広島県熊野町 全国書画展覧会運営委員会	第40回ふれいあい書道展	筆都大賞
			第41回ふれいあい書道展	筆都大賞
	佐藤 潤弥	東都大学軟式野球連盟	令和二年度東都大学軟式野球 秋季リーグ戦	敢闘賞
	塚本 大	全国俳誌協会	全国俳誌協会第3回新人賞	特別賞
	福田 汰成	東都大学軟式野球連盟	令和二年度東都大学軟式野球 秋季リーグ戦	ベストナイン(遊撃手)
	宮下 夏実	葛飾柴又帝釈天全国書道コンクール実行委員会	第8回葛飾柴又帝釈天全国書道 コンクール	葛飾柴又寅さん記念館賞
	小林 加奈	葛飾柴又帝釈天全国書道コンクール実行委員会	第8回葛飾柴又帝釈天全国書道 コンクール	柴又帝釈天賞
	竹下 結菜	葛飾柴又帝釈天全国書道コンクール実行委員会	第8回葛飾柴又帝釈天全国書道 コンクール	葛飾区教育委員会賞
金子 星那	長野県佐久市	第8回佐久全国臨書展 一般部 漢字	入選	

課外活動団体助成

	団体名	内容
1	落語研究会	第18回全日本学生落語選手権「策伝大賞」出場
2	多目的音楽サークルGHz	夏ライブ 会場借用費キャンセル料の補填

お知らせ

二〇二一年度 父母会定期総会について

左記の日程により、二〇二一年度二松学舎大学父母会定期総会を開催いたします。当日は、講演会を予定しております。

日時・二〇二一年五月二十二日(土)
場所・二松学舎大学九段キャンパス
一号館

内容・二〇二一年度事業報告並びに

決算

・二〇二一年度事業計画並びに
予算

新二年次生(新四年次生の会員の皆様には、二〇二一年度定期総会のご案内と出欠票(委任状)をこの父母会報第一一二号に同封しておりますので、ご確認願います。

また、準備の都合上、ご出欠を同封の出欠票(委任状)で新三・四年生は五月七日(金)までに、新二年生は五月十四日(金)までにお知らせください。定期総会資料につきましては、五月中旬に郵送にてお届けします。

なお、新型コロナウイルスの感染状況により、大学での総会開催を中止としなければならぬ場合は、書面議決に変更させていただきます。開催の可否につきましては、一ヶ月前を目途に父母会ホームページでお知らせいたします。

二〇二一年度

地区別父母懇談会について

父母会では、大学の協力のもと毎年各地区を訪問し、意見交換を行う「地区別父母懇談会」を開催しております。二〇二〇年度は、コロナ禍により中止となりましたが、次年度は本年中止になった地区を中心に、オンラインも活用しつつ再開する方向で検討しております。

二〇二一年度の開催地は、香川県・鹿児島県・茨城県・青森県・島根県・鳥取県・新潟県・秋田県・東京都(二回開催)・大阪府の十会場を予定しております。日程や開催方法につきましては、決まり次第ご連絡させていただきます。なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、実施を見合わせざるを得なくなる場合もございますので、ご了承願います。

この地区別父母懇談会は、教職員が、開催地に赴き、大学の現況、履修の状況、学生生活の状況、就職活動の支援等についての説明を行っております。全体説明終了後、個別相談も行っております。大学への質問およびご意見・お要望などを大学関係者に直接話が出来る機会です。この機会をぜひご利用ください。

フリー参加形式としておりますが、会員の皆様に改めて事務局より開催案内をお送りし、出欠の確認をお取りします。

万障お繰り合わせの上、ご参加願います。

学生の成績確認方法

変更に関するお知らせ

本学においては二〇一九年度から学修支援システム「LiveCampus」保護者ポータルを導入いたしました。これにより、保護者様がPCやスマートフォンで学生の成績等の学修状況を随時参照することが可能となっております。

この保護者ポータルの導入に伴い、春セメスター(春学期)、秋セメスター(秋学期)ごとの成績を保護者様が随時参照できるようになったため、従来行っておりました保護者様宛の年度末成績通知書の送付については、二〇二〇年度より実施しないことといたしました。

「LiveCampus」保護者ポータルの利用方法については、昨年六月に、ユーザーマニュアルを父母会定期総会資料に同封してお送りしておりますので、ご確認ください。別途、教務課からのお知らせを同封させていただきましたので、併せてご確認くださいませようよろしくお願ひ申し上げます。

保護者ポータルについて、ご不明な点がありましたら、学生支援課(gakusei@nishogakuh-u.ac.jp)までお問い合わせください。

編集後記

ご家族の皆様、そして何より二松学舎を巣立られる四年生の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。心からお慶び申し上げます。

父母会報も百十二号二十八年を重ね、ご家族と大学の橋渡しとして学生生活や大学の事を普通にお知らせしてきましたが、今年度はその普通の事ができない一年でした。学生の皆さんは大学に足を踏み入れることも儘ならず、特に新入生やここで卒業される四年生は、残念なことに普通に行っていた中野サンプラザでの式典が中止となり、また、父母会活動もどう学生生活に係わっていけばよいのか思案に暮れました。普通の事を普通に行えることの喜びが、次年度は回復することを願うばかりです。

本号は卒業する皆さんへの記念の会報です。収められた皆さんの代表の思いが、先生方のメッセージが何かの機会に読み返す皆さんの一助となれば幸いです。難局を乗り越え、次年度の学生生活に寄り添った父母会活動のため、旧態にとらわれず、会員皆様のご助力が必要です。皆様の更なるご支援をお願ひいたします。

末筆ながら、会報発行にご協力いただいた事務局をはじめ、関係した多くの方に心から御礼申し上げます。